

高尾ビジターセンター インタープリテーション全体計画



2025 年 9 月 1 日
株式会社自然教育研究センター

目次

0 . インタープリテーション全体計画の位置づけ	p.02
1. 高尾山におけるインタープリテーションの目的	
1-1. 明治高尾の森国定公園設置経緯	p.03
1-2. 高尾ビジターセンター設置経緯	p.04
1-3. 高尾ビジターセンターのビジョン	p.05
1-4. インタープリテーションのミッション	p.05
2. インタープリテーション上重要な資源	p.06
3. 来訪者に望まれる体験（来訪者にこのような利用をして欲しい）	p.08
4. 解説のテーマ（メッセージ）	p.11
5. 高尾山の来訪者分析	p.15
6. インタープリテーション・プログラム（メディア）	p.18
7. 戦略的なプラン	p.31

本計画は、高尾ビジターセンターが明治の森高尾国定公園および東京都立高尾陣場自然公園の自然環境の保全と歴史文化の継承を、より効果的、効率的に行うために 2018 年に策定し、更新を行ったものである。

対象期間は、2025 年 9 月から 2030 年 3 月までとする。



1-1 明治の森高尾国定公園設置経緯

自然に恵まれない大都市住民のために、自然の保護を図りながら、自然と親しめるレクリエーションの場を提供する目的で昭和 42 年、国の明治百年事業の一つとして指定された。国定公園面積は 770ha で全域が自然公園特別地域、そのうち 504ha が高尾鳥獣保護区特別地域に指定されている。

東京都立自然公園条例（昭和二十五年九月東京都条例第六十一号）第四条の規定により昭和 25 年 11 月 23 日都立自然公園を設定した。



1-2 高尾ビジターセンター設置経緯

国定公園利用者のため、公園の自然や人文についてわかりやすく展示、解説すると共に適切な利用指導案内を行い、自然保護思想の高揚をはかるための中心的施設として建設された。昭和 53 年に落雷のため焼失し、昭和 57 年に再建され 6 月より開館した。



1-3 高尾ビジターセンターのビジョン

高尾山および高尾地域を訪れるすべての人が、安全に安心して自然、歴史、文化を楽しみ、高尾山がこの先もずっと保全されていくことを目指す。

そして願わくば多くの利用者が、高尾山の自然や歴史、文化の価値を認識することで、身の回りの自然や文化を見つめなおす機会となり、持続的な社会の実現に寄与する。

1-4 インタープリテーションのミッション

1. 豊かな自然を手軽に利用できる高尾山の植物や動物、環境の価値を伝える。
2. 1300年続く、高尾山の背景にある歴史、文化を知り、高尾山の価値に気づくことを促す。
3. 登山をする上での楽しみを伝え、安全情報を提供することで利用者の安全、安心な登山に寄与する。公園利用におけるマナー普及をし、適正利用を促す。

高尾山の森林は暖温帯と冷温帯の境に位置し、南側はカシ、シイ等の常緑広葉樹林、北側はブナ、モミ等の落葉広葉樹林となっている。

天平十六年（西暦 744 年）行基菩薩の開山以来約 1300 年間、信仰の場として殺生が禁止されてきた。また、1889 年には高尾山全域が帝室御料林、1950 年に東京都立高尾陣場自然公園、1967 年明治の森高尾国定公園に指定され、その環境が保護されてきた歴史をもつ。そのため、現在も以下のような、たくさんの生物が生息する環境が残っている。植物 1321 種（日本全域に自生する植物の 30%）、哺乳類 32 種（日本全域に生息する哺乳類の 24%）、鳥類 136 種、爬虫類 11 種、両生類 11 種、昆虫 4000 ～ 5000 種、クモ類 330 種（日本全域に生息するクモ類の 33%）。

また、高尾山の登山口へは都心から電車で1時間以内、山頂へは徒歩約1時間半以内で登頂可能である。このような立地環境と、近年の登山ブームにより、2014年11月26日の登山者数は約7万4千人となり、日本で最も多くの利用者が訪れる山であると考えられる。

以上のように、豊かな自然が手軽に利用できる、日本で最も利用されている自然公園が高尾山である。

- ・ 暖温帯、冷温帯による多様な植生
- ・ 尾根、沢、人間の土地利用など多様な環境
- ・ ブナ
- ・ 生物多様性
- ・ 希少種
- ・ ボランティア
- ・ ムササビ
- ・ 薬王院の歴史
- ・ 歴史的文献
- ・ 火渡り祭り
- ・ 御護摩祈禱
- ・ 年間利用者数の多さ
- ・ 高尾山利用ルール
- ・ 東京都自然公園利用ルール

- ・いくつかのコースを歩いて、高尾山の特徴的な地理や地形と、歴史に由来する多様な環境があることを体感してほしい。
- ・季節を変えて訪れて、動植物から季節の移り変わりと、異なる気候帯において形づくられる植生を楽しんでほしい。
- ・市街地から山地にわたる多様な環境で見られるたくさんの生きものや、その痕跡を見つけてもらいたい。できれば触れてそのおもしろさを感じてほしい。
- ・盗掘や踏み込みの影響と、その対策を目の当たりにして、自分たちの行動が未来の自然を守ることに繋がっているということを知ってほしい。
- ・護摩焚きや節分会など薬王院で行われる行事に触れ、その歴史に思いを馳せてほしい。
- ・親子や異なる世代で高尾山の自然を楽しんで、自然や環境について目を向けるきっかけにしてほしい。

来訪者に望まれる体験（来訪者にこのような利用をして欲しい）

- ・ 様々な季節に高尾山に登って、季節ごとのリスクと安全、安心のための適切な装備、知識が必要であることを理解してほしい。
- ・ 自分に合った登山道を見つけて、登山の楽しさを実感してほしい。
- ・ 高尾ビジターセンターのプログラムに参加したり、オリジナルグッズを手にして、高尾山の自然をより楽しんでほしい。



解説のテーマは、明治の森高尾国定公園および東京都立高尾陣場自然公園の背景にあるストーリーを通して伝えられる重要なことであり、高尾ビジターセンターがそのミッションを果たすために、訪れた来訪者に持ち帰ってもらいたい、高尾ビジターセンター、及びインタープリターが利用者に伝えるべきメッセージである。これらを伝えることにより、来訪者にとっての明治の森高尾国定公園、及び東京都立高尾陣場自然公園の価値を高めることに寄与する。

高尾ビジターセンターが行う取り組み（メディア）は必ず、いずれかのテーマもしくはサブテーマを伝えるために行われる。これらはインタープリターが直接言葉にして伝えるだけでなく、体験を通して来訪者自らが気づくことを促すこともある。

テーマ	サブテーマ	含まれるトピック（想定）
<p>1. 高尾山は、千年以上も前よりそれぞれの時代の人々の想いによって守られ続け、世界的に見ても大都市である東京の都心部に最も近い登山ができる山でありながら、今もなお日本有数の生物多様性を残している。</p>	<p>1-1. 暖温帯と冷温帯の境に位置することや尾根や沢などの地形的な特徴、人間の土地利用などが、狭い範囲に多様な植生をつくりだし、数多くの植物を育む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 暖温帯、冷温帯 ・ 尾根、沢、人間の土地利用 ・ 高尾山の地史地質
	<p>1-2. 豊富な植物と多様な環境が、高尾山の生物多様性を支えている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 常緑広葉樹 ・ 常緑針葉樹 ・ 落葉広葉樹 ・ 潜在植生 ・ スギの植林 ・ ブナ ・ スミレ科 ・ キク科 ・ シソ科 ・ カエデ科

		<ul style="list-style-type: none"> ・アオタマムシ ・ヨコヤマヒゲナガカミキリ ・アサギマダラ ・オトシブミ ・ギフチョウ ・タカオメダカカミキリ ・哺乳類 ・野鳥 ・爬虫類 ・両生類 ・フィールドサイン ・生態系と食物連鎖 ・多用な環境
	<p>1-3. 高尾山の豊かな自然は古くから自然誌研究や学習の場を提供してきた。例えば、高尾山で発見された植物は 63 種にもものぼる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性 ・希少種 ・牧野富太郎 ・中西悟堂 ・探鳥会の歴史 ・日本で最初のインタープリター常駐 ・ネイチャゲームの最初のワークショップ

	<p>1-4. ゴミ持ち帰り運動をはじめ、たくさんの市民の努力、協力によって高尾山の自然は守られてきた。これからもそうであり続けるために、利用者それぞれの取り組みが欠かせない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゴミ持ち帰り運動 ・ ボランティア ・ ムササビ観察のマナー ・ 野外観察活動の時の心がけ ・ 野生動物との共存のしかた ・ 希少植物
<p>2. 千年以上も山伏たちが修行し、祈りを捧げてきた高尾山にはその歴史と文化が息づいており、今も祭事や風習、建物、石碑にその面影を見ることができる。</p>	<p>2-1. 高尾山の僧侶は現代においても毎朝欠かさず夜明けとともに、護摩を焚いて祈祷し、山内の水行道場で滝行を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 薬王院の教義 ・ 御護摩祈祷 ・ 滝行 ・ 琵琶滝、蛇滝 ・ 火渡り祭り
	<p>2-2. 薬王院の年中行事は山岳信仰、富士山信仰の教えを今に伝えている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 六根清浄 ・ 迎光祭 ・ 富士登拝練行
	<p>2-3. 薬王院は千年以上も信仰の場としてあり続け、今もなお殺生禁断の教えが息づいている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 殺生禁断 ・ 薬王院

<p>3. 高尾山は、登山の「はじめの一步」の場所として、安全で楽しい山歩きを後押しする。</p>	<p>3-1. 高尾山は古くから初心者でも登山を楽しめる場所であり、魅力的で個性豊かなたくさんの登山道があなたを待っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然研究路 ・ いろはの森コース ・ 関東ふれあいの道 ・ 東海自然歩道 ・ 年間利用者数 ・ 登山者数の多さ
	<p>3-2. 適切な登山装備や計画、判断は、あなたの登山を安心、安全で楽しいものにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事故を防ぐために自分でできる取組み ・ 登山計画のポイント ・ 季節に合った装備 ・ 高尾山ならではのリスク
	<p>3-3. あなたの心遣いで、この先もずっと、みんなが快く高尾山を利用できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然公園法 ・ 東京都自然公園条例 ・ 高尾山利用ルール ・ 東京都自然公園利用ルール ・ マナー

		自然保全	動植物観察	自然散策	登山	観光
		高尾山の自然保護や、環境保全に対する意識が高く、実際に活動を行っている、もしくは行う意向がある。	植物や野鳥の観察が好きで、ある程度の種名は知っている。保護、保全のための活動は行っていない。	植物や野鳥に関心はあるが、詳しくは知らない。高尾山で知られているセッコクやシモバシラには関心がある。	山を歩くことが好き、とにかく山頂に到着することを目指す。周囲の動植物はあまり見ない。	観光で訪れる。パワースポット、展望、食べ歩きがしたい。
一人	60歳以上で、来訪10回以上が5割を占める。動植物を見ることを目的に来訪している割合が高い。	○	◎	○	○	

友人知人 グループ	20～35歳が多く、 初来訪の傾向が強い。 風景全般を来訪目的にしている 割合が高い。				○	◎
親子連れ	30～34歳の女性の割合とその子供の割合が高く、複数回の来訪の傾向が強い。		◎	○	○	
夫婦	35～59歳が多く、 2～9回程度の来訪の傾向が強い。			○	◎	○
ツアー 参加者	初めての来訪の場合が多く、遠方の居住者。				○	◎

学校団体	八王子市内、多摩地区の小学校、保育園、幼稚園が多くを占める。		○	○	◎	
自然観察	植物や野鳥などの観察を行っている。	○	◎	○		
大学自然系サークル	ムササビをはじめとした動植物の観察、調査のために訪れる。月1回から年に1、2回など頻度は団体による。	○	◎			
ボランティア団体	観察会などのイベント実施やゴミ拾いなどの活動を行う。60歳以上の高齢層のことが多い。	◎	○			

想定される傾向 ◎: 強い ○: やや強い

本計画では以下のメディアを実施する。

- ・ワークショップ
- ・ガイドウォーク
- ・ミニトーク
- ・自然教室
- ・団体対応
- ・印刷物
- ・SNS
- ・展示
- ・ホームページ
- ・取材対応
- ・ボランティア・人材育成事業
- ・物販



ワークショップ

ねらい

参加者が高尾山への関心を持つことを促すとともに、日常と高尾山での体験をつなぐ

内 容

高尾山の自然、歴史文化を題材にしたスライドショーの上映と、その内容にまつわるワークショップの実施

日 時 ・ 午前：11:00 - / 午後：14:30 -
・ 各 30 ～ 45 分
・ 土日祝日

場 所 1 階展示室

実施者 解説員 1 名

対 象 ・ 無関心層
・ 全世代

定 員 各 10 名

参加費 500 円前後（1 点製作につき）

ガイドウォーク

ねらい

実体験を通して参加者が高尾山の重要性を理解し、関心を持つことを促す

内 容

高尾山の旬な自然を、研究路を歩きながら体験的に紹介する

日 時 ・ 13:30～（50 分間）

・ 土日祝日

※ゴールデンウィークと 11 月は
ミニトークにふりかえ

対 象 ・ 無関心層～関心層

・ 全世代

定 員 各 10 名

場 所 大見晴園地、1 号路、5 号路

参加費 300 円（1 名参加につき）

実施者 解説員 1 名

ミニトーク

ねらい

参加者が高尾山への関心を持つことを促す

内 容

- ・高尾山の自然、歴史文化を題材にしたトークプログラムの実施
- ・主にガイドウォークが中止の場合に実施する

日 時 13:30～(15 分間)

定 員 なし

場 所 館内

参加費 無料

実施者 解説員 1 名

対 象 ・無関心層
・全世代

自然教室

ねらい

実体験を通して参加者が高尾山の重要性を理解し、自ら行動することを促す

内 容

高尾山に関する体験的なプログラムを行う

日 時 プログラム毎に異なる

定 員 各 20 名程度

場 所 プログラム毎に異なる

参加費 2000 円程度（1 名参加につき）

実施者 解説員 2 名

対 象 ・ 関心層
・ 全世代

団体対応

ねらい

団体で訪れた利用者が高尾山への関心を持つことを促す

内 容

スライドショー：写真や現物を用いて高尾山について紹介する

日 時 12:00 ～ / 12:30 ～
※各回移動時間含め 30 分間

場 所 レクチャールーム

実施者 解説員 1 名

対 象 ・ 保育園、幼稚園
・ 小中学校、高校
・ 大学
・ その他グループ

定 員 各回最大 60 名程度

参加費 無料

印刷物

ねらい

印刷物を通して、高尾山での利用者の体験を促し、その重要性の理解を促す

内 容

- ・ ニュースレター：高尾山の自然、歴史文化について解説し、その重要性への理解を促す
- ・ セルフガイド：季節毎に体験ができる情報を解説し、利用者の高尾山での体験を促す

日 時 常時配布

定 員 特になし

場 所 高尾ビジターセンター

費 用 無料

実施者 配布物毎による

対 象 ・ 無関心層～関心層
・ 全世代

SNS

ねらい

高尾ビジターセンターの使命を果たす速報性のあるメディアの一つとして位置づけるとともに、広報機能を最大限発揮する

内 容

- ・ X、Facebook 等を用いて以下の情報を写真やテキストを用いて配信する
旬な自然情報、通行止めや工事など登山道情報、イベント情報

日 時 随時更新

場 所 登山道、もしくは高尾 VC にて更新

実施者 解説員

対 象 関心層：旬な自然情報、イベント情報
無関心層：登山道情報

定 員 特になし

費 用 特になし

展示

ねらい

パネルおよびハンズオン展示を通して、高尾山に関心とその重要性への理解を促す

内 容

高尾山の自然、歴史文化、登山道等に関するパネルおよびハンズオン展示の製作、更新

日 時 常設

定 員 特になし

場 所 1 階および地階展示室

参加費 特になし

実施者 展示毎による

対 象 ・無関心層～関心層
・全世代

ホームページ

ねらい

高尾山を訪れる前の利用者に、高尾山の登山道や自然、歴史文化について周知する

内 容

高尾ビジターセンター利用案内、登山道案内、自然情報案内、歴史文化案内、SNS ページの挿入

日 時 随時更新

場 所 特になし

実施者 解説員

対 象 ・ 無関心層～関心層
・ 全世代

定 員 特になし

参加費 特になし

取材対応

ねらい

- ・ 高尾山を訪れる前の利用者に広く、高尾山の登山道や自然、歴史文化について周知する
- ・ ビジターセンターの利用を促す

内 容

高尾ビジターセンターでの取材対応

日 時 随時

媒 体 雑誌、ラジオ、テレビ等各メディア

場 所 高尾ビジターセンターおよび山内

定 員 特になし

実施者 解説員 1 名程度

費 用 特になし

ボランティア・人材育成事業

ねらい

高尾山での活動希望者に向けて、適切な育成を行い、活動を管理する

内 容

- ・ 高尾パークボランティア会との協働
- ・ 学芸員実習、インターンシップ等ビジターセンターでの業務に関心がある学生等への機会の提供

日 時 随時

場 所 高尾ビジターセンター / 高尾山内

実施者 担当 1 名、補佐 1 名

対 象 高尾パークボランティア会ボランティア、首都圏自然系大学研究室、サークル、専門学校等

定 員 合計 60 名程度

参加費 500 円（保険料）

物販

ねらい

高尾ビジターセンターの使命を果たすメディアの一つとして位置づける

内 容

オリジナル商品、印刷物等を販売する

日 時	開館日 10:00~16:00
場 所	高尾ビジターセンター館内
実施者	解説員 1 名

対 象	来館者
定 員	特になし
費 用	販売物による

メディアのターゲット（パーソナル）

		パーソナル						
		ワーク ショップ	ガイド ウォーク	ミニトーク	自然教室	団体対応	ボランティア 人材育成事業	取材対応
一人	60歳以上で、来訪10回以上が5割を占める。動植物を見ることを目的に来訪している割合が高い。	○	◎	◎	◎		○	
友人知人 グループ	20～35歳が多く、初来訪の傾向が強い。風景全般を来訪目的にしている割合が高い。	◎	○	◎	○			

親子連れ	30～34歳の女性の割合とその子供の割合が高く、複数回の来訪の傾向が強い。	◎	○	◎	○			
夫婦	35～59歳が多く、2～9回程度の来訪の傾向が強い。	○	◎	◎	○			
ツアー参加者	初めての来訪の場合が多く、遠方の居住者。					◎		
学校団体	八王子市内、多摩地区の小学校、保育園、幼稚園が多くを占める。			○		◎		
自然観察団体	植物や野鳥などの観察を行っている。			○		◎	◎	

大学自然系サークル	ムササビをはじめとした動植物の観察、調査のために訪れる。月1回から年に1、2回など頻度は団体による。			○		○	◎	
ボランティア団体	観察会などのイベント実施やゴミ拾いなどの活動を行う。60歳以上の場合が高年齢層の場合が多い。					○		
メディア	テレビ、新聞、雑誌等制作会社							◎

◎: メインターゲット ○: サブターゲット

メディアのターゲット（ノンパーソナル）

		ノンパーソナル				
		展示	印刷物	ホームページ	物販	SNS
一人	60 歳以上で、来訪 10 回以上が 5 割 を占める。動植物 を見ることを目的 に来訪している割 合が高い。	○	○	○	◎	◎
友人知人 グループ	20 ～ 35 歳が多く、 初来訪の傾向が強 い。風景全般を来 訪目的にしている 割合が高い。	○	○	◎	◎	◎

親子連れ	30～34歳の女性の割合とその子供の割合が高く、複数回の来訪の傾向が強い。	○	○	○	○	○
夫婦	35～59歳が多く、2～9回程度の来訪の傾向が強い。	○	○	○	○	○
ツアー参加者	初めての来訪の場合が多く、遠方の居住者。	○			○	
学校団体	八王子市内、多摩地区の小学校、保育園、幼稚園が多くを占める。	◎	○	○		
自然観察団体	植物や野鳥などの観察を行っている。	○	○			○

大学自然系サークル	ムササビをはじめとした動植物の観察、調査のために訪れる。月1回から年に1、2回など頻度は団体による。	○	○			○
ボランティア団体	観察会などのイベント実施やゴミ拾いなどの活動を行う。60歳以上の場合が高年齢層の場合が多い。			○		○
メディア	テレビ、新聞、雑誌等制作会社		○	○	○	○

◎: メインターゲット ○: サブターゲット